

済生会大牟田病院

糖尿病通信

2022年10月17日

福岡県済生会大牟田病院

内分泌糖尿病内科

内分泌・糖尿病センター 岩屋 智加予

インスリン発見から101年、糖尿病の歴史を振り返ってみましょう

11月14日は世界糖尿病デー

11月14日の世界糖尿病デーは、世界に広がる糖尿病の脅威に対応するために1991年にIDF(国際糖尿病連合)とWHO(世界保健機関)が制定し、2006年に国連により公式に認定されました。**11月14日は、インスリンを発見したカナダのバンティング博士の誕生日**であり、糖尿病治療の画期的な発見に敬意を表し、この日を**糖尿病デー**として顕彰しています。

世界糖尿病デーは、世界でも有数の疾患啓発の日となっており、この日を中心に全世界で繰り広げられる糖尿病啓発キャンペーンは、糖尿病の予防や治療継続の重要性について市民に周知する重要な機会となっています。世界糖尿病デーのキャンペーンには、青い丸をモチーフにした「ブルーサークル」がシンボルマークとして用いられます。国連やどこまでも続く空を表す「ブルー」と、団結を表す「輪」をデザインし、「Unite for Diabetes”(糖尿病との闘いのため団結せよ)というキャッチフレーズとともに、世界中で糖尿病抑制に向けたキャンペーンを推進しています。

世界糖尿病デーイベント2022開催のお知らせ



世界糖尿病デー

2022.11.1(火) ▶ 11.14(月)
ブルーライトアップ

2022.11.8(火) AM9:30~11:30 PM14:00~16:00
済生会大牟田糖尿病デーイベント

場所:3階 大会議室

- 血糖測定 ・ 血圧測定 ・ 体組成測定 ・ 握力測定
- 骨密度測定 ・ 血管年齢測定
- 指輪のがテスト(サルコペニアチェック)
- 医師・管理栄養士・理学療法士によるミニ講演
- 各種相談(医療・栄養・お薬)

感染対策に気を付けて行いますので、ぜひご参加ください。

2021年度済生会大牟田ライトアップ写真

当院においても、皆さんに糖尿病予防や健康について、今一度考えていただく機会になればと、世界糖尿病デーイベントを毎年開催し、正面玄関をブルーにライトアップし、さまざまな啓発のためのイベントを行なっています。

今年は、『糖尿病とサルコペニア(筋肉量の減少)』をテーマに、11月1日(火)から11月14日(月)の期間ブルーライトアップを行い、11月8日(火)の午前と午後、さまざまなイベントを予定しています。

血糖値・血圧、筋肉量などの体組成はもちろんのこと、今年は骨密度や血管年齢も無料で測定できます。どなたでもご参加いただけますので、是非お気軽にお越しください！！

糖尿病の歴史～インスリン発見が糖尿病治療の歴史を変えた～

今年はインスリン発見から**101年**を迎えます。皆さんの『インスリン』のイメージといえば、「重症で終末期の糖尿病患者が打っている注射薬」、「はじめたら一生やめられない」といったイメージがあるかもしれませんが、それは誤解です。**インスリンは「ミラクルドラッグ」**であり、いつの時代においても糖尿病の治療には欠かせません。糖尿病はいつから人に認識され、治療はどのように発展してきたのでしょうか。糖尿病の歴史を紐解くとともに、治療に大きな効果をもたらしたインスリン発見の経緯について解説します。

★糖尿病の発見は紀元前？！



その歴史は大変古く、**3500年前(紀元前1500年頃)のエジプト**の王テーベ王の墓から発見された本の中に**すでに糖尿病と思われる病気の治療法が記載**されていて、約1800年前のカッパドキア(トルコの古代都市)のアレタエウスは重症糖尿病についてこんな記述を残しています。『糖尿病は驚くべき疾患であり、肉と手足を湿った冷たい老廃物として尿中に溶かしてしまう。その分泌物は腎と膀胱により普通の経路で排出される。患者は決して尿をつくることをやめず、排尿は水門を開きっぱなしにしたように絶えない。この疾患は慢性的なものであり、徐々に起こるが、いったんこの疾患が完全に確立されてしまうと、引き起こされる衰弱は急速で死は速やかであり、患者が長生きすることはない』と。まさに、人類の歴史とともに糖尿病は現れたといっても過言ではありません。

★日本ではじめての糖尿病患者はだれ？

日本第一号の糖尿病患者は、平安時代の権力者で栄華を極めた**藤原道長**(源氏物語の光源氏のモデルと言われている)と考えられています。当時の文献に、糖尿病の病状に苦しみ、晩年には失明し、背中にできものができてそれが化膿して死んだと書かれています。では何故、藤原道長は糖尿病になってしまったのでしょうか？当時、彼の生活は山海の珍味や酒の宴といった食べ過ぎ、十二単に牛車といった運動不足、権力争いなどのストレス、そして、当時はやや肥満が美男美女の条件であったうえに(肖像画を見ても藤原道長さんはこの条件を満たしていたと思われる)、日本人であるという遺伝的素因が加わり、糖尿病になったと考えられます。



★ミラクルドラッグ『インスリン』を最初に発見した人は？

体内で唯一血糖値を下げるホルモン『インスリン』は、**1921年**にカナダのトロント大学で**バンティング先生**と当時学生であった**ベスト先生**によって発見されました。インスリン発見前、1型糖尿病は死の病で、飢餓療法という超低炭水化物食が患者に強いられ、ミイラ化して亡くなるのを待つみの悲惨な病気であり、多くの若い命が失われていきました。しかし、インスリン発見によって、やせ細った患者の体は瑞々しい肉体を取り戻すことができ、**インスリンの発見は人類の歴史を変え、多くの人の命を救った大発見**といえます。この功績が讃えられ、インスリンの発見は1923年にノーベル賞に輝き、トロントの奇跡と呼ばれています。インスリン発見から101年の間にさまざまな糖尿病治療薬が開発され、糖尿病治療は大きく進歩してきました。しかし、**インスリン発見の凄いところはインスリン発見から101年経った今でも、インスリン療法が糖尿病治療の第一線で臨床使用されているところ**です。開発されたさまざまな糖尿病治療薬の多くがインスリン作用を介しており、**あらゆるタイプの糖尿病に適した治療薬でもある『インスリン』は糖尿病治療薬のミラクルドラッグ**であると言えます。ですから、インスリン療法を嫌わず、1921年の発見に感謝しながら、必要であればより早期に適切に導入し、血糖コントロールを良好に保ち、健康な人と変わらない寿命を確保し、健康な人と変わらない人生を送っていただきたいと切に願っています。

